

第4回 学校運営協議会

和歌山さくら支援学校



平成31年2月4日（月）和歌山さくら支援学校では、今年度最後の第4回の学校運営協議会が開かれました。学校運営委員のメンバーは8名、学校側からの参加を含めて16名でスタートしました。協議では、高等部作業学習や毎年6月に実施されるアビリンピックの外部講師の取り組みについて、高等部と地域の幼稚園の交流について話しを進めました。高等部の作業製品を観光宿泊施設の店頭で販売すること、また、コラボ製品を作成し提供していくこと等が具体的に進み、今後は、生徒達との交渉や話し合いを大切にしながら、展開に期待をしたいと思えます。

運営協議会最後の挨拶



武内校長が1年間の運営協議会の成果を確認するとともに、地域の方の反応や声が学校に新しい風をもたらしてくれること、また議長からは、本校の子どもたちのありのままの姿がわかる授業に積極的に参加をし、課題解決に取り組んで行きたいと最後の挨拶が行われた。

地域の幼稚園との交流成果について

高等部の生徒たちが地域の幼稚園児にゲームの企画をし、交流を通して自分達の活躍が園児たちに喜ばれる様子や、やさしく接する生徒たちの姿を説明。本校の生徒の実態を通し、自信や肯定感を高める取り組みとして大切であることを協議会で確認された。

作業製品を企業で使用する目的や計画について



本校の作業学習の製品づくり(本物)をなぜ、求めるのか、教育の視点とは違う企業側からの質問や意見等活発な協議が再度行われた。作業学習の物づくりを通して販売や製品を使用して頂くことで、外部とのコミュニケーション力や経験不足である生徒の自己有用感を高めることが大切であることを確認した。大手の宿泊施設の協力を得ることが出来、製品販売、宿泊施設で使用できる様々な製品の目的や今後の展開について企業側から説明を頂いた。

高等部生徒たちによる製品の売り込みの様子



はじめて、自分たちの作業製品の売り込みに出かけた生徒たち。各作業製品の良さや用途について自分たちで考えて説明を行った。宿泊施設支配人さんと、色々な注文や製品に対して交渉がスタートした。販売ルートや製品完成に至るまで生徒自身が、自分たちの力で努力をし、支配人さんとの話し合いを通して獲得する経験や体験がとても大切である。学校側は、それをしっかりサポートできる体制づくりを行っていきたい。